

The logo for MAX SPINNING REEL. The word "MAX" is in a large, bold, stylized font with a small "X" superscript to the right. Below it, the words "SPINNING REEL" are in a smaller, bold, sans-serif font. The entire logo is set against a dark background.

日本語版取扱説明書

このたびはアブ・ガルシアMAX X SPシリーズをお買い上げいただきありがとうございます。アブ・ガルシアリールは50年以上もの間、高品質、高機能、高耐久性のリールの代名詞として知られ、今日でも、トーナメントサーキットを転戦するバスプロ、記録を目指すエキスパート、フィッシングガイドなど、世界中のトップアングラーに選ばれています。本製品の性能を十分に引き出し、あなたの釣りを楽しいものにするために、ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みください。

<<主な仕様>>

- コンパクト左右非対称ボディ
- ねじ込み式ハンドル
- 4ボールベアリング+1ローラーベアリング
- ロケットラインマネジメントシステム
- マシンカットアルミスプール
- ナイロンライン付き
- ハンドル左右交換可能
- SW/FW対応

仕様一覧表

製品名	自重(g)	ギア比	最大ライン巻き取り長 (cm/ハンドル1回転)	最大ドラグ力 (kg)	ベアリング入り数 (ボール/ローラーベアリング)
Max X 750 糸付き	180	5.2:1	54	3	4+1
Max X 1000 糸付き	213	5.2:1	57	3	4+1
Max X 2000 糸付き	219	5.2:1	63	3	4+1
Max X 2500 糸付き	230	5.2:1	69	3	4+1
Max X 2500D 糸付き	232	5.2:1	69	3	4+1
Max X 3000 糸付き	235	5.2:1	74	6.4	4+1
Max X 4000 糸付き	264	5.2:1	80	6.4	4+1

ラインキャパシティ①ナイロン・フロロカーボン(m)

製品名	0.148mm	0.165mm	0.205mm	0.235mm	0.260mm	0.285mm	0.330mm
	約3lb/0.8号	約4lb/1号	約6lb/1.5号	約8lb/2号	約10lb/2.5号	約12lb/3号	約16lb/4号
Max X 750 糸付き	165	135	90	65			
Max X 1000 糸付き	195	155	105	75			
Max X 2000 糸付き		200	135	100	80		
Max X 2500 糸付き			250	185	150	125	
Max X 2500D 糸付き			250	185	150	125	
Max X 3000 糸付き				225	180	150	115
Max X 4000 糸付き				300	240	200	150

ラインキャパシティ② PEライン(m)

製品名	PEライン							
	0.4号	0.5号	0.6号	0.8号	1号	1.2号	1.5号	2号
Max X 750 糸付き	270	215	180					
Max X 1000 糸付き	300	240	200					
Max X 2000 糸付き		320	265	200	160			
Max X 2500 糸付き				375	300	250		
Max X 2500D 糸付き				375	300	250		
Max X 3000 糸付き					360	300	240	180
Max X 4000 糸付き						400	320	240

※スプール記載の糸巻量はUS基準になります。日本では上記表をご参照ください。

※最大ライン巻取について：最大ライン巻取はスプール径からの計算値によってハンドル1回転あたりのライン最大巻取長を表示しております。

※ラインキャパシティーについて：糸巻量は使用する各社ラインによって誤差が生じます。また、ラインを巻取るテンションによっても変化します。実釣においてはスプール径目一杯に巻くことはないため、上記の糸巻量は目安としてください。

※PEラインを巻く場合は、巻き初めのテープ止めまたはナイロンライン下巻きが必要です。

※製品の各仕様・デザイン・価格については、改良等のため予告なく変更する場合があります。

その他特長と使用方法

左右両用ハンドル

出荷時の状態は左ハンドル使用になっています。ハンドル位置を左右交換する場合は、以下の手順で実施してください。

- ①ハンドルの反対側についているハンドルキャップを外してください。
(キャップが右についている場合は反時計回り、左についている場合は時計回りにまわしてください)
- ②ハンドルとハンドルキャップを入れ替えてください。
- ③ハンドルとキャップを①とは逆の方向に回してとりつけてください。

※使用中に緩み、落下しない程度にきつく締めてください。

インスタントアンチリバーズ機構

インスタントアンチリバース機構によりハンドルの逆回転方向のアソビ(ガタ)をなくし、アタリをとりやすく、確実なアワセを可能としました。本製品にはストッパーレバーが無く、ストッパーは常にONの状態となっております。リバースを竿先まで、巻き込んだ場合は、バールを開く前にスプールを糸線より左方向に回転させ、必ず糸のたるみを作ってください。

コイルベイルスプリング

耐久性に優れたコイルバイルスプリングを採用。

ラインクリップ

スプールのスカート部分にあるラインクリップは、リールを使わないとき、ラインの端を保持しておくために使用します。

注意

- キャストイング（投げる）の時は、ベールを起こすことを忘れないでください。仕掛けが切れたり、思わぬ方向にとんで、周囲の人にけがをさせるおそれがあります。
 - リールを釣り以外の目的で使用しないでください。
 - 糸が勢いよく出ているとき糸をつかまないでください。糸で指を切ることがあります。
 - リールの回転部にはグリスや油が付いていますので、衣類を汚さないように注意してください。
 - リールを構成します各部のパーツは食用ではありません。リールは幼児の手の届かないところへ保管してください。万一飲み込んだ場合は、ただちに医師とご相談ください。

 - 回転しているスプールには触れないでください。けがをするおそれがあります。
 - スプールと糸の間に指をはさまないように注意してください。指を切る恐れがあります。

 - サミング操作をする場合、ヤケドや指をはさんでケガをする恐れがありますので、注意してください。

 - ハンドルとボディの間に手をはさむと、けがをするおそれがあります。

 - リールを構成します各パーツは精密なセッティングにより出荷されておりますので、メンテナンスは、当社へおまかせください。

ピュア・フィッシング・ジャパン株式会社

〒135-0042 東京都江東区木場2-15-12 MAビル

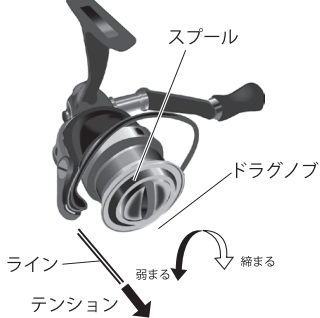
TEL 03-6860-5180

■仕様/デザインは改良などのため予告なしに変更することがあります。



ドラッグ調整方法

ドラグとは、ドラグの締め付けを調整することにより、魚の急激な引きに対応し、スプールが空転して糸切れを防ぐ機構です。

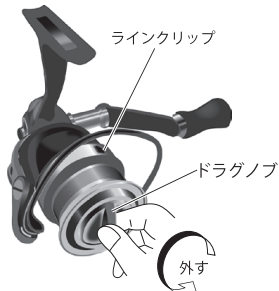


※ドラグノブは右に回すと強く締まり、左に回すと弱くなります。

※リールをロッドにセットし、ラインをロッドのガイドに通してから調節してください。アンチリバースONの状態では、手で糸を引き出しながら、ドラグの締め付けを調節します。通常は糸が切れる前にスプールが空転するよう調節します。ドラグ締め付けによる糸の引き出しテンションを、ライン強度の1/3程度に調整するのが一般的です。

スプール取り外し方法

※ドラグノブを反時計回りに回して外し、スプールを外すことができます。

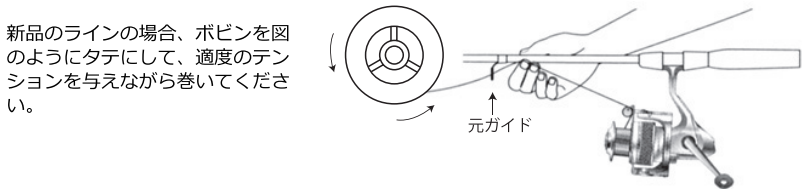


※ドラグノブは右に回すと強く締まり、左に回すと弱くなります。

※リールをロッドにセットし、ラインをロッドのガイドに通してから調節してください。アンチリバースONの状態では、手で糸を引き出しながら、ドラグの締め付けを調節します。通常は糸が切れる前にスプールが空転するよう調節します。ドラグ締め付けによる糸の引き出しテンションを、ライン強度の1/3程度に調整するのが一般的です。

新品のラインをリールに巻く方法

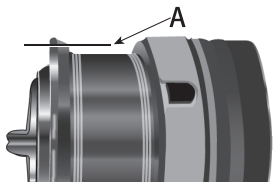
必ず図のような方法でリールをロッドにセットし、まずベイルを開き、新しいラインをスプールに結びます。再度ベイルを閉じて、スプールにラインを巻いてください。しっかりと巻くためにドラグはしっかりと締め適度なテンションをかけながら巻いてください。



※図のようにロッドの元ガイドを活用するととても便利です。

ラインを巻く適正量

スプールエッジA位置がラインの適正巻き終わり位置です。ラインを多く巻き過ぎるとライントラブルの原因となります。



メンテナンス

リールの性能をいつまでも維持する為に釣行毎のメンテナンスが大切です。水洗いする前に必ずドラグノブを締めてください。そして、水道などの流水でリールの内部に水が入らないように注意しながらリールの表面の汚れ、塩をサッと洗い流します。その際、リールを水に漬けるような洗い方や長時間の水洗いは絶対にさけてください。洗った後は乾いた布で拭き、十分に乾かしてから、必ず注油してください。オイル、グリスの塗布する箇所は下記のイラストを参考にしてください。注油回数が少ないのはもちろん良くありませんが、不必要な箇所への注油や必要以上に多くのグリスをつける、回転不良などにつながりますのでご注意ください。リールの保管時はドラグを必ず緩めておいてください。

